

# 徒然なるままに…23

— 県大会へ行ってきました。 —



平成26年11月26日  
白鳥小学校 研修部

11月も下旬を迎えました。まったく実感は、わかりませんが、もうすぐ年の瀬です。忘年会、クリスマス、新年…と、楽しい予定がありがたいことでしょう。今年は、ぎりぎりまで研修が入っていますので、悪しからず。

さて、11月14日に、三次市立布野小学校で開かれた第51回広島県小学校社会科教育研究大会北部・芸北大会に参加してきました。この日は、全国的に急な冷え込みで、布野もかなり寒く、一日中ストーブの近くにいました。布野小学校は、周りが田んぼに囲まれ、見渡す限りが自然いっぱい、まさに、田園地帯のど真ん中の学校でした。この地域性を生かした教育活動が展開されています。



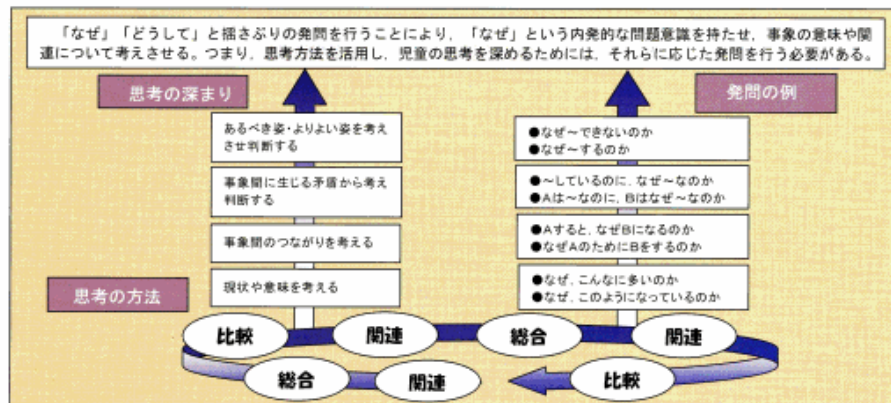
## 1 研究報告—研究主任 掛田 直美 先生

布野小学校では、学習問題を追究・解決する過程において、児童の思考を深める発問の工夫と「考え方モデル」の活用をすることによって、思考力・判断力・表現力を育てることを目指して、研究が進められています。その特徴として、次の2点が挙げられます。

1点目は、思考を深める発問の工夫です。「なぜ。」と疑問が生まれる事象を提示し、内発的な問題意識が持てるようにするとともに、さらに思考を揺さぶる発問をして、思考を促そうとしています。(〈資料1〉)

2点目は、「考え方モデル」の活用です。授業の中で、

「比較」・「関連」・「総合」する場面を設定し、「考え方モデル」と呼ばれる話型を使って、この三つの思考を促そうとしています。(〈資料2〉)



〈資料1：思考を深める発問の工夫〉

	比較	関連	総合
思考の方法	●2つの社会的事象を比較して、相違点や共通点を見出す力	●社会的事象相互の関連性や関係性を説明する力 ●社会的事象の意味や働き、背景などを説明する力	●共通点や規則性、傾向などを考え抽象化、概念化してまとめる力
めざす思考	●部分比較 ●集合比較 ●変化 ●傾向 ●比較—疑問	社会的事象の多面的な関連付け ●「原因—結果」 ●「目的—手段」 ●「条件—結果」 ●「仮定—結果」	●定義付け（抽象）
考え方モデル	●～が同じです。 ●～という共通点がある。 ●～がちがいます。 ●～という相違点がある。 ●～と～を比べる～という特徴がある。 ●どうして～と同じ(ちがう)なのだろうか。	●～と…をつなげて考えると○○ということが分かる。 ●～だから、○○している。 ●～は、○○のためにしている。 ●～という条件がそろると○○となる。 ●もし、～だったら、○○になるだろう。	●～をまとめて考えると○○ことが言える。 ●つまり(結局)～ことが分かる。

〈資料2：「考え方モデル」の活用〉



本研究は、思考力・判断力・表現力の育成を目指して、子どもの思考を促すための手立てを追究されているといえるでしょう。しかし、問いを立て、話型などを取り入れれば、子どもは、思考するのでしょうか。そこには、「仕組む」ことが必要です。どのような内容・情報をどう組み立てて問いにするか、どういう手法を提示して考えさせるか（どういう観点で、どういう流れ・過程で子どもは考えるか）といった仕組み、原理を考え、意図的に仕掛けていくことが必要だと思えます。それを目指そうとしているのが、「学び合いシート」の活用です。これが少しずつ浸透しつつあると感じる一方、思考の仕方の部分がまだ曖昧な気がします。ねらいから鑑みて、どの部分について考えさせたいのか、内容（の構造）から鑑みて、どう考えればそれが明らかになるかをご自分の思考に乗せながら考えてみていただければと思います。

2 公開授業・授業分科会－5年 森永清司 先生  
単元「わたしたちの生活と環境」は、我が国の自然災害の様子や防災対策について、見学等で調べ、自然災害から命を守るために、国や地方公共団体が様々な対策を進めているとともに、一人一人が協力したり、防災意識を高めたりして、防災のために取り組むことが必要なことに気付くことがねらいです。本時は、三次市と布野町のハザードマップを比べ、近所住民や細かい地形についてや避難の仕方など、その内容の違いから、地域の人たちが防災のために協力しようとしていることに気付く学習でした。



実際は、広島県の土砂災害に関する資料などもあったのですが、この授業は、「ハザードマップ」という一つの資料をじっくりと読み、布野町のハザードマップの意味から、「共助」の必要性について考えるものでした。資料一つから読みとり、理由付けたり、意味付けたりするのは、授業者にも子どもにも力がないとできない、社会科授業の王道かもしれません。



一方、「共助」について考える場合、やはり、地域で実際に動いておられる「人」の姿が欲しいところです。しかし、布野町が広域なことと他の町と合併してできたことから、自主防災組織ができにくい一面があるとのことでした。ならば、それを逆手にとって、他の町の例から学んで、自主防災のための街づくりについて考える単元も想定できるかもしれません。

### 3 実践提案分科会

「資料をもとに考えたことを表現する力の育成をめざして

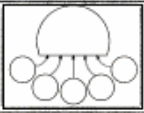

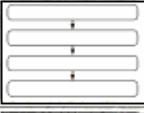

－社会科授業におけるシンキングツールの活用を通して－

福山市立今津小学校 吉本 憲令 先生

社会的事象の特徴や関連、意味について説明する力、つまり、考えたことを表現する力を育てるために、先般から本校でも取り上げている「思考スキル」、「シンキングツール」を活用した授業づくりについての提案でした。

提案された6学年単元「黒船の来航と阿部正弘」は、黒船来航に伴い開国を要求された

幕府で、老中首座となった阿部正弘の諸政策とその意図について調べることを通して、世界の中の日本として近代化が進められたことが分かることがねらいの学習でした。本

	学習内容	思考スキル	シンキングツール（時数）
①	ペリーが日本に開国を迫った理由を考えると、外国との関係や国内の動きに関心をもつ。	理由付ける	クラゲチャート（第1時） 
②	阿部正弘が開国を決断したことについて自分なりに評価することで、幕末の政治や社会の仕組みの変化について考える。	評価する	PMI（第2時） 
③	260年間続いた江戸幕府の体制が崩壊していった様子を順序立てることで、天皇中心の国家をつくる運動が武士の世の中を終わらせたことを考える。	順序立てる	ステップチャート（第3時） 
④	阿部正弘が行った政策を分類することで、世界のなかの日本として近代化が進められようとしたことをとらえる。	分類する	Yチャート（第4時） 

〈資料3：単元展開と「思考スキル」、「シンキングツール」の設定〉

時では、阿部正弘の行った政策を「Yチャート」を使って、「もの」・「人」・「こと」で分類することを通して、諸政策の意図を考え、先例を破り、世界に通用する日本の基礎を築こうとしたことに気付くようにされていました。政策を分類するわけについての議論を通して、児童は、より詳しく政策の内容や意図について考えようとしたとの報告でした。

〈資料3〉のように、各時間の学習内容に基づいて、「思考スキル」、「シンキングツール」を設定し、意図的に子どもの思考を展開されているところは、意義があると思われました。しかし、本時は、学習内容と「思考スキル」、それに付随する学習活動に整合性があるでしょうか。阿部正弘の行った一つ一つの政策の意図を「理由付け」し、それらを「比較」（類比）することによって、世界の中の日本として近代化を進めようとした阿部正弘の考え方が見えてくるのではないのでしょうか。学習内容（の構造）に基づいて、適する思考の仕方としての「思考スキル」を選択する必要があります。あくまでも大切なのは、仕組みとしての「思考スキル」であり、「シンキングツール」は、それを促すものなのです。

#### 4 記念講演

「社会科における思考力・判断力・表現力の育成

ー地域を活用した授業づくりを通してー

広島大学大学院 木村 博一 先生



今回の木村先生の講演は、4月の校内全体研でお話いただいた授業づくり論に準ずるものでした。そこで、新たなお話から私が考えたことをまとめようと思います。一つ目は、社会的な見方・考え方のとらえ方についてです。これは、法則や仕組みから、社会を見ることです。例えば、3学年「わたしたちのくらしと商店」では、スーパーマーケットが行っている戦略一つ一つの意図に迫ることから、客を集め、収益を上げようとする商店の本質が見えてきます。また、1日のうち、時刻によって商品の並べ方を変えていることに目を付け、その意図に迫ることから、時代によってニーズが多様になっており、商店も消費者の様々なニーズに応える戦略をとっているこれからの社会の有り様が見えてきます。これは、教えたい内容に基づいて、社会諸科学の成果から事象をと

らえることであり、前者は、経営（学）的な見方・考え方、後者は、現代社会の見方・考え方となるでしょう。社会諸科学の成果は、私たちの教材研究、社会認識の手法であり、根拠となるものなのです。

二つ目は、グローバル化と地域教材の価値です。それぞれの地域には、特色・よさや課題があります。具体的な事象から、それら地域の価値を見出すのが地域教材です。

現在、私たちの生活は、グローバル化にさらされています。例えば、国産の農産物や水産物に正当に値段を付けても、客から「高い。」と言われるのは、外国から安い産物が多く輸入されているからです。私たちの生活は、「物質」的にも、「制度」的にも、グローバル化の影響を受けているのです。

しかし、私たちが日本人として大切にしてきたもの、いわば、「精神」的なものは、グローバル化されようとも、変わらず生き続ける、「不易」なものなのではないでしょうか。地域への愛情をベースにして、地域が大切にしてきたものの意味とそれを伝承しようとする人々の姿、営みが地域ならではの価値を持ち、それを見出すことができることが地域教材から学ぶ意義なのです。社会科では、特に、地域教材を取り上げることが大切になりますが、「地域が持っている価値」を観点に教材開発することが必要なでしょう。

#### 5 まとめ－研究の意義としての子どもの育ち

布野小学校の先生方には、社会科を専門教科とされた方がおられないとお聞きしました。どの授業も今回の県大会に向けて、お一人お一人が地域の特色を生かしながら、教



たいテーマを持たれて授業づくりされたと感じる地道なものでした。

ただ、残念だったのは、子どもの授業力です。思考が息切れしてしまったり、発言する子どもが偏っていたり、議論が練り上がらなかつたりしていると感じました。どの学級も10人前後の子どもですから、もっとグループワークのようなイメージの授業が展開できるのではと思いました。先生方一人一人が「学び合う」授業のイメージを持ち、それに向かって日々指導・訓練を積み重ねていくことが大切だと思います。

一方、どの学級にも、図画大会の作品が展示されていました。全体会では、「ふるさと」をテーマにした全校発表がありました。その作品一つ一つのすばらしさに、感動しまし



た。子どもたちが作品づくりにじっくりと向き合ったことが分かりました。

私たちが研究を進める意義は、子どもに力を付けることです。昨年から言い続けているように、社会科の授業さえできればいいわけではありませんし、他の学習・取組が充実していなければ、社会科もいいものにはなりません。先日、普段あまり話し掛けてくださらない校長先生が「社会科に取り組んだら、国語も算数も伸びたというようにしよう。」と力を込めておっしゃいました。どんな子どもに育てるのか、そのためにどう本校らしい教育活動を展開するのにかかっていると思います。日々、目の前の子に、今付けるべき力を確実に付け、子どもを育て、鍛えていきましょう。これが何よりの研究成果なのですから。

なお、県大会関係の資料は、後ろの図書コーナーに置いておきます。

## 研究会を振り返って…

お二人の先生が研究会で感じたことを寄せていただきました！

### 山本 理恵 先生

公開授業では、社会的見方や考え方の育成を目指して、経済の実践、経営経済学、地理学的、社会学的、政治的内容など、様々な内容に各学年が取り組まれており、大変勉強になりました。また、どの学年も、地域を活用した授業づくりをされていて、子どもたちの関心が高いものでありました。

2年生の生活科の授業では、児童の思考を深めるための発問に工夫されていて、教師側の言葉かけが必要なものだけにしぼられていました。具体的な活動や体験を通した授業であり、思考力、判断力、表現力を引き出す展開となっていました。振り返りの活動の中に比較（人・以前）を取り入れ、思考を深めていました。ねらいと評価をしっかりとおさえたまとめをしていて、子どもたちにもよく伝わっているようでした。

実践提案では、つきたい力を明確にして実践や教材選びをされた実践発表でした。

### 有森 歩 先生

大いちょうが美しい三次市立布野小学校で、第4学年単元「私たちの県『特色のある地いきと人々の暮らし～三次ピオーネ～』」の授業を見せていただきました。授業で学んだことは大きく3点あります。

#### (1) 資料をきちんと読み取らせ、それを根拠として意見を述べ合い、考えを深めること

前段階として、瀬戸田のレモン作りに適した気候について学習しており、そこで得た知識を活用できるように本時を構成していました。授業では、児童が瀬戸田と三次、2つの町の気温図を、比較し、気温図から読み取れること根拠にピオーネづくりに適した気候についての意見を述べ合って考えを深めていました。

#### (2) 地域素材を教材化し、社会が見える授業づくりを行うこと

現地へ何度も足を運ぶことで、素材を社会科教材にされた布野小学校の先生の社会科授業づくりは、「児童の考えを覆す事実から人々の工夫や努力を考えさせること」であると感じました。本時では、今までの学習に基づいた児童の考え「三次の気候（気温差、雨の多さ）はピオーネづくりに適している」→「気温は適しているが雨量は適していない」→「雨量が多いのになぜ（水はけのよさを好む）ピオーネを作れるのか」→「人々が何か工夫や努力をしているからだ」→「その具体的なものは…」と続いていきました。

#### (3) 掲示物が児童の思考を助けていること

本時に至るまでの学習資料が教室に効果的に掲示してあり、児童の思考場面で役立っていました。資料も分かりやすく、具体的な学習の様子が伝わってきました。

以上のことが、日々の社会科授業づくり、1月の授業づくりに生かせるのではないかと感じました。